

# 中部白山の保護と利用に関する報告書

1990年3月

石川県環境部

「はじめに」

白山国立公園は自然条件及び利用形態から、中部・北部・南部の3地域に大別することができる。このうち中部白山地区は白山主峰から室堂・南竜にかけての高山帯を中心に公園の核心部になっており、夏場は市ノ瀬を起点に大勢の登山者でにぎわいをみせている。

本地区は、独立峰ならではの雄大な展望景観にめぐまれ、ハイマツの樹海や豊かな残雪にはぐくまれた広大なお花畑は全国の登山者に親しまれている。

また、白山より西に高山帯を有する山が存在しないため、白山を西限とする多くの植物が分布し、学術上も大変貴重な地域である。

登山者はここ十数年、3万人台で大きな変動はないがそのほとんどが7、8月の夏山シーズンに集中しピーク時には室堂及び南竜の宿泊施設は大変な混雑となる。

この時期の過度の利用の集中は、登山道にも大きな影響を及ぼしエコーライン及び展望歩道は、登山者の踏みつけによる植生の後退に加え雨水による表土の浸食が進み歩道の崩壊は周辺植生の消滅の危険さえはらんでいる。

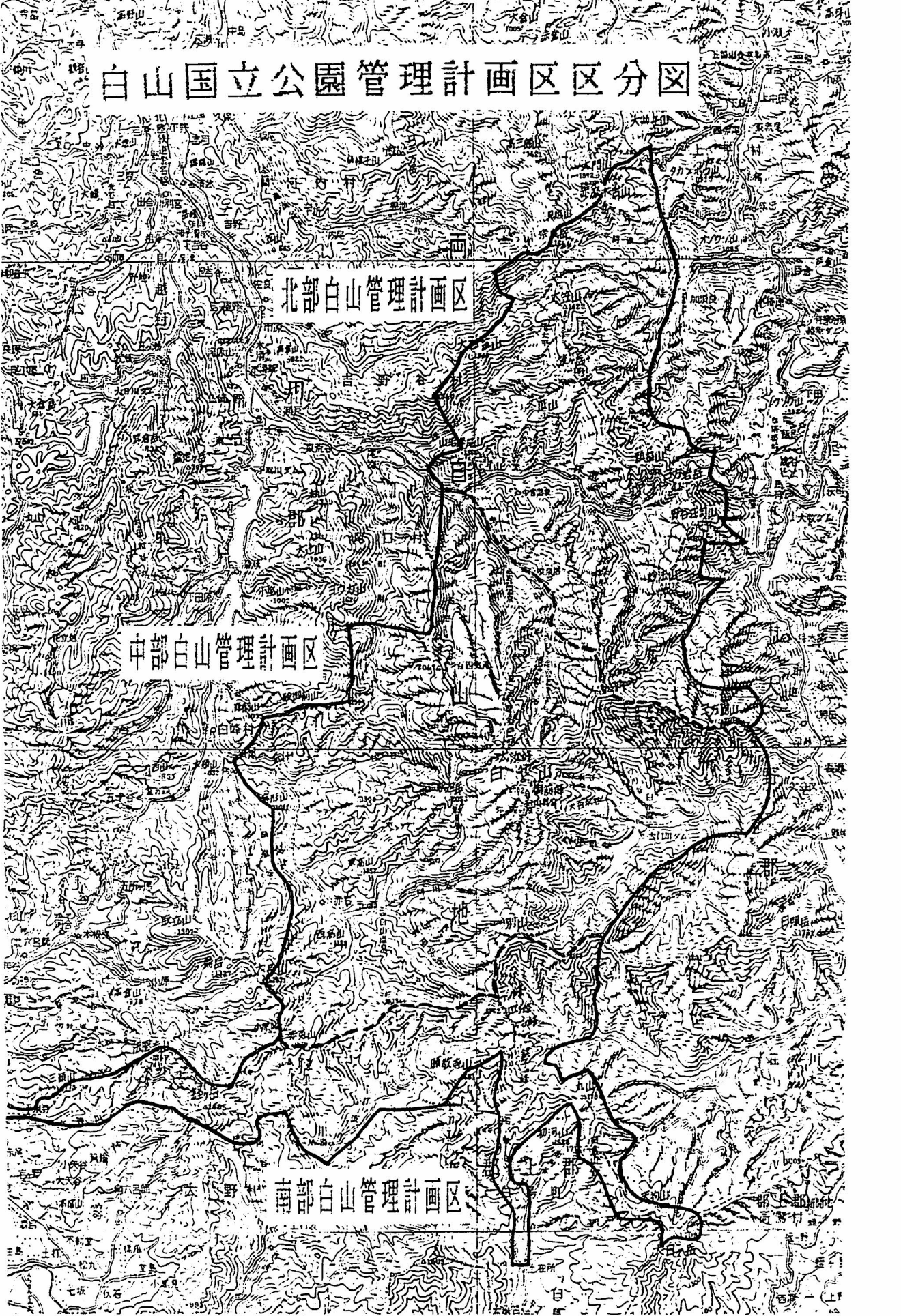
一方、リゾートに湧く昨今の社会情勢を反映して、白山でもいくつかの開発計画が提示されてきた。

白山自然保護センターでは、白山を取り巻くこれらの様々な問題を踏まえて昭和62年から昭和63年の2か年にわたり、自然環境、入り込み、アンケート等の調査を実施し「白山国立公園の保護と利用に関する報告書」としてまとめた。

この、冊子はその結果と過去の様々な調査などから、これからの白山の保護と利用に関する基本方針を導き出そうとするものである。

なお、中部白山のうち、加賀禪定道・岩間道・中宮道周辺については、今後の調査をまつこととし、今回は取り扱わなかった。

# 白山国立公園管理計画区分図



## 目 次

1. 経緯	
(1) 白山国立公園の指定と計画設定	1
(2) 登山関連施設の整備	2
(3) 登山者数の推移	3
(4) 保護と利用の調査	4
(5) 利用にともなう対策等	5
2. 現状分析と対策	
(1) 施設	
① 宿泊施設	7
② 登山道	10
③ 避難小屋	11
(2) 自然環境	
① 動植物	12
② 地形・地質	14
③ 大気	15
(3) 利用者の動向	
① 登山入り込み	16
② 山麓入り込み	19
③ 駐車場入り込み	19
④ 登山者のマナー	20
3. 車道延伸及びその他の構想	21
4. 保護と利用の基本方針	23